

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立双葉西小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語、算数ともに平均正答率は全国を上回っており、一定の定着がみられます。
- ・国語の「読むこと」では、人物像や物語の全体像に具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができています。また「話すこと・聞くこと」では、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を考えることはできています。一方で、日常生活の中から話題を伝え合う内容を考えることに課題が見られます。
- ・算数では、「データの活用」や「図形」の分野に定着がみられました。「データの活用」では特に折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件を言葉と数も用いて記述することや「図形」では角柱の底面や側面に着目し、五角形の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述することがよくできています。一方、「変化と関係」の分野で速さの意味についての理解に課題が見られます。
- ・国語、算数ともに「記述式」の問題形式が全国に比べて高い結果となりました。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目

学校に対する思い、自己肯定感、いじめへの認識、話し合いで考えを深める活動への意欲が高い数値を示しています。特に「人が困っていたときは、進んで助けている」と答えた児童の割合が全国平均を上回り、友達や他者を大切にしていることが分かります。ICT機器の使用頻度について「ほぼ毎日」「週3日以上」と答えた割合が高く、学習活動の中でICT機器が活用されていることがわかります。また、地域の活動に参加しているや地域をよくするために行動したいと回答した児童の割合が高いのは、地域の「学校応援団」によるさまざまな活動を通して、地域とのつながりを強く感じている結果だと思われます。

- ・課題となる項目

「国語が好き」「英語が好き・やや好き」と答えた児童の割合が全国平均を下回っています。教科のもつ面白さを味わわせるとともにその教科の有用性について理解し、意欲的に学べるよう授業を進めていくことが、これからの課題と考えます。

「朝食を毎日食べている」と答えた児童の割合が全国平均を下回っています。朝食を食べずに学校へ来る児童がいることが分かります。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・ICT機器を活用し、児童に合わせた授業づくりや仲間とともに学び協働する授業づくりに取り組みます。
- ・児童の思考力、判断力、表現力を伸ばすために、図やグラフ、資料等を提示しながら自分の考えや思いを伝え合う場面を意図的に設定し、学年をとおして学び合いの授業づくりに引き続き取り組んでいきます。
- ・国語では、読書を推進するとともに、日常生活や社会の事象と学んだことを関連づけて考える授業づくりに取り組みます。
- ・算数では、児童自らが苦手なところを把握し、その解決方法を探す授業づくりに取り組みます。ただ単に答えの正答に終わるのではなく、「なぜ」「どうして」など疑問を持てる児童を目指します。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・朝食の摂取、睡眠時間の確保、家庭での読書や学習など今後も児童の安定した生活習慣づくりをお願いします。
- ・生活のリズムを整え、ゲームやテレビ、スマートフォン等の使用に関わる家庭ルールを決め、しっかりと守らせましょう。
- ・お子さんの音読を聞いたり、親子でいろいろな本を読んだりする機会を増やし、一緒に読書を楽しみましょう。